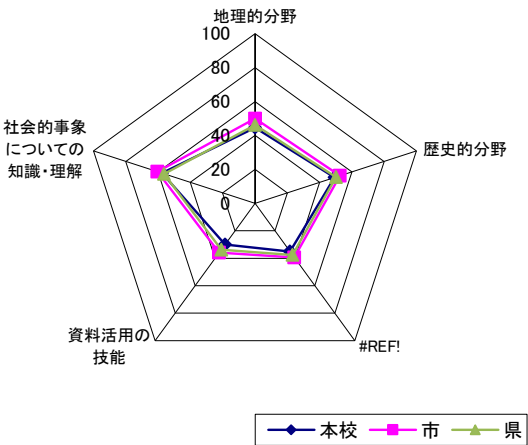


宇都宮市立社会中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	44.6	50.0	46.2
	歴史的分野	49.3	52.6	50.2
	#REF!	35.1	39.4	37.6
	資料活用 の 技能	29.9	35.9	33.8
	社会的事象 についての知識・理解	57.6	60.4	56.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○選択式の問題の正答率を県と比較すると、ほぼ同じか高い傾向にある。 ●平均正答率は44.6%で、市と県の平均を下回っている。 ●「世界の地域構成」の正答率は51.6%であるが、成績の上位層と下位層の得点差が大きい。 ●「世界各地の人々の生活と環境」の正答率は56.6%である。宗教分布の問題について、成績の上位層と下位層の得点差が非常に大きい。 ●「世界の諸地域(アジア)」の正答率は41.5%で、多くの生徒の学力が定着していないと考えられる。 ●「世界の諸地域(オセアニア)」の正答率は30.8%で、多くの生徒の学力が定着していないと考えられる。特に雨温図に関する問題については、市と県の正答率を10%前後下回っている。	・「社会的事象についての知識・理解」については概ね良好なので、自主学習用のプリント作成、小テストの実施、放課後や長期休業中の補充学習等を引き続き行っていく。 ・全14問中、成績の上位層と下位層の得点差が大きいものが9問あった。下位層引き上げのために、自主学習用プリントの内容や小テストの実施回数等の見直しを図る。 ・「社会的な思考・判断・表現」や「資料活用の技能」の学力向上が大きな課題である。 →地図を利用した学習の場を更に増やし、さまざまな種類の世界地図を理解させ、宗教や気候の分布を読み取る力を高められるようにする。 →雨温図やさまざまなグラフを読み取る学習の場を更に増やし、2つ以上のグラフを組み合わせ物事を考え表現する力を高められるようにする。
歴史的分野	○「歴史のとらえ方」の正答率は55.9%である。特に西暦年が何世紀か答える問題については、正答率が62.6%となっており、市と県の平均を10%以上も上回っている。 ○「鎌倉時代～室町時代」の正答率は61.0%で、5問中3問が県の正答率を上回っている。 ●平均正答率は49.3%で、市と県の平均を下回っている。 ●「縄文時代～古墳時代」の正答率は32.9%で、多くの生徒の学力が定着していないと考えられる。選択式の問題については、正答率が市と県を上回っているが、文章や語句で答える記述式や短答式の正答率が低い。 ●「飛鳥時代～平安時代」の正答率は41.9%で、多くの生徒の学力が定着していないと考えられる。選択式の問題については、正答率が県を上回っているが、文章や語句で答える記述式や短答式の正答率が低い。	・「社会的事象についての知識・理解」については概ね良好なので、自主学習用のプリント作成、小テストの実施、放課後や長期休業中の補充学習等を引き続き行っていく。 ・全15問中、成績の上位層と下位層の得点差が大きいものが7問あった。下位層引き上げのために、自主学習用プリントの内容や小テストの実施回数等の見直しを図る。 ・「社会的な思考・判断・表現」や「資料活用の技能」の学力向上が大きな課題である。 →複数の資料を活用し、歴史的事象の背景や原因を考え、それを表現する学習の場を増やしていく。プリント学習だけでなく、グループ学習やディベート等の方法を授業で取り入れることにより、多角的・多面的に思考する力が身に付くようにさせる。 →歴史の授業においても地図を活用する場を増やし、歴史上のできごとが起きた場所を示すことができる力を身に付けさせる。